

令和6年度
蓮田市中学生の生活実態調査

報告書

令和7年2月

蓮田市

1 調査期間
令和6年10月22日～同年11月22日

2 調査対象者
市内中学校に通学する中学生

3 調査方法
タブレットによるアンケート調査

4 回答率

学年	回答数（A）	全体数（B）	回答率（A／B）
中学1年生	370	413	89.6%
中学2年生	357	439	81.3%
中学3年生	396	458	86.5%
合計	1,123	1,310	85.7%

※学年別回答数は、生年月日の回答より推計

※全体数は、令和6年5月1日時点の児童・生徒数

5 報告書の見方

- 調査結果の数値は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で表記しています。
- 集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答可の質問では、回答者数（n）に対する回答比率のため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 「SA」は、シングルアンサーの略で、選択肢の中から1つだけ選んで回答する設問です。「MA」は、マルチアンサーの略で、選択肢の中から複数選んで回答する設問です。
- 本報告書における前回との比較では、前年度に学校教育課で実施した調査結果を参考資料としています。
- 調査の基準日は、回答日です。

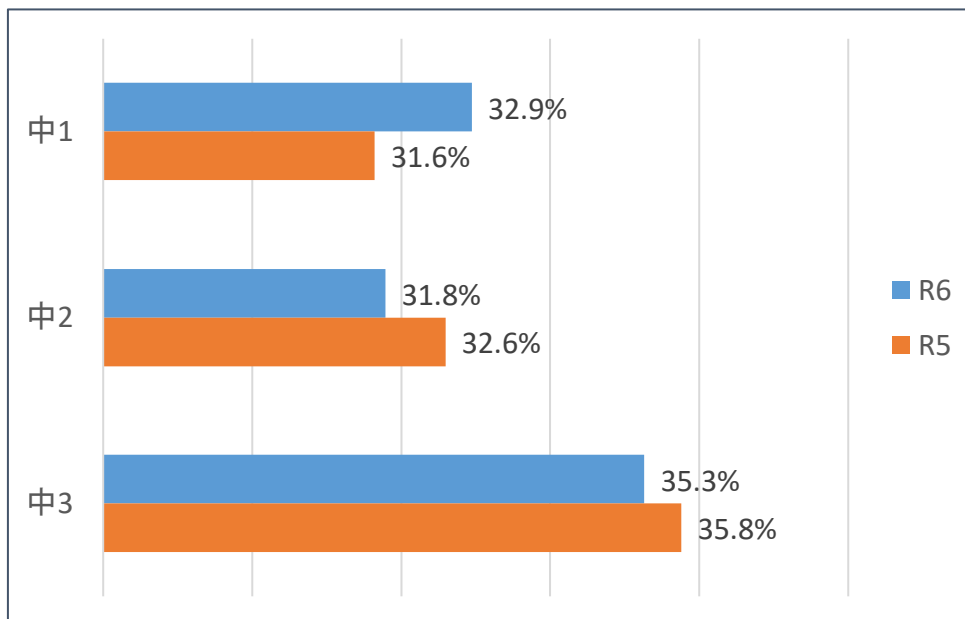
6 調査結果

問1) あなたの名前をフルネームで教えてください。

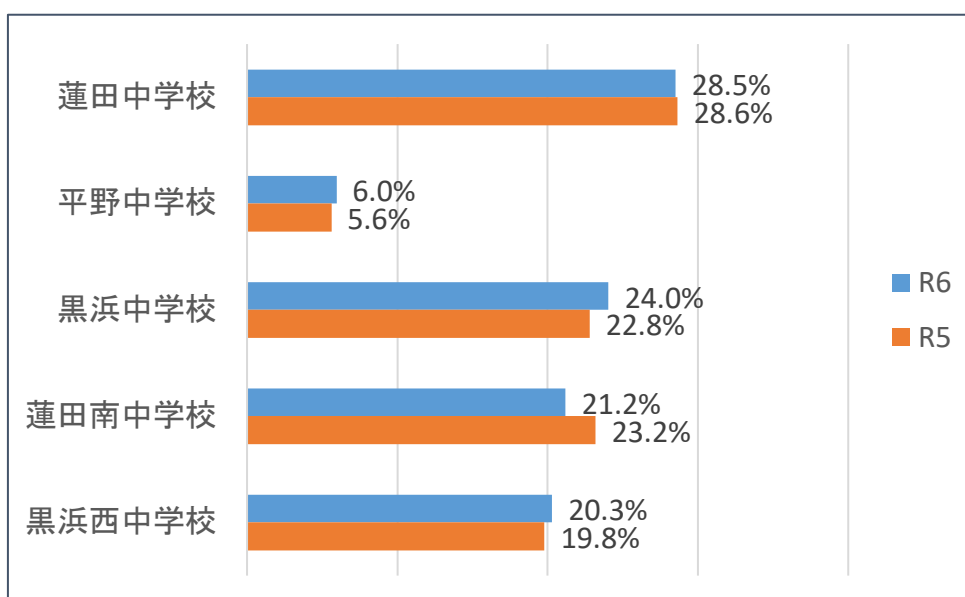
※非公表

問2) あなたの生年月日を教えてください。

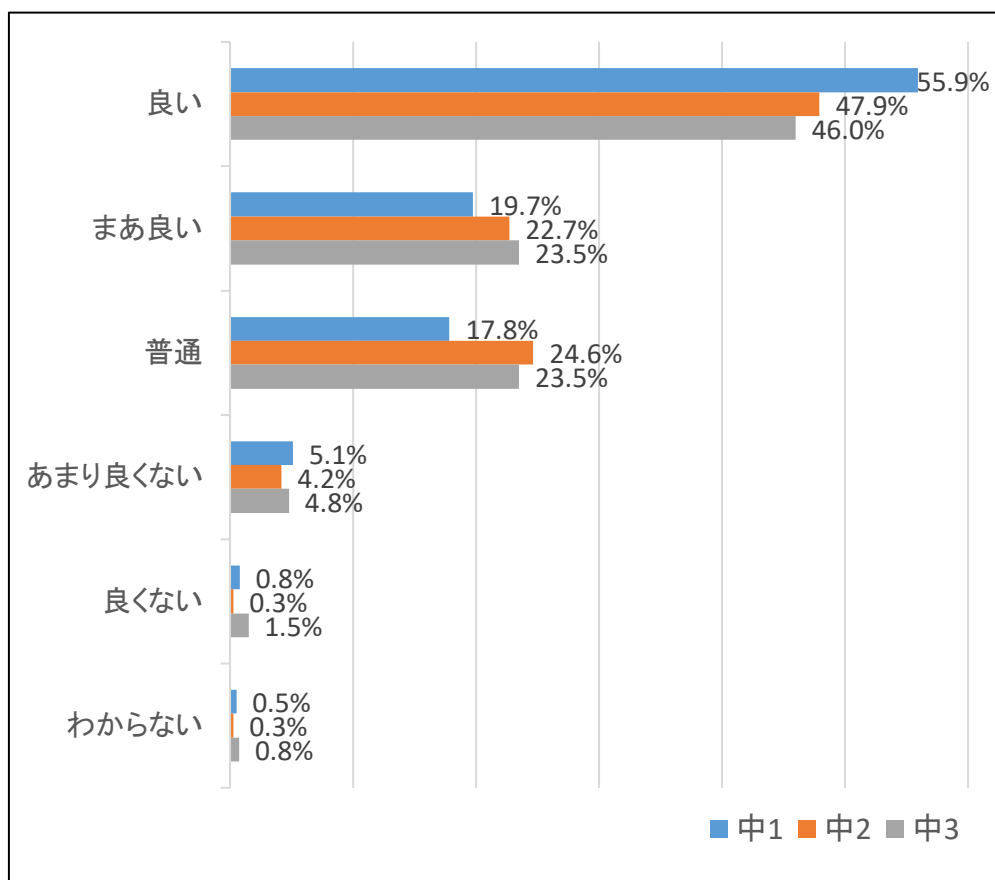
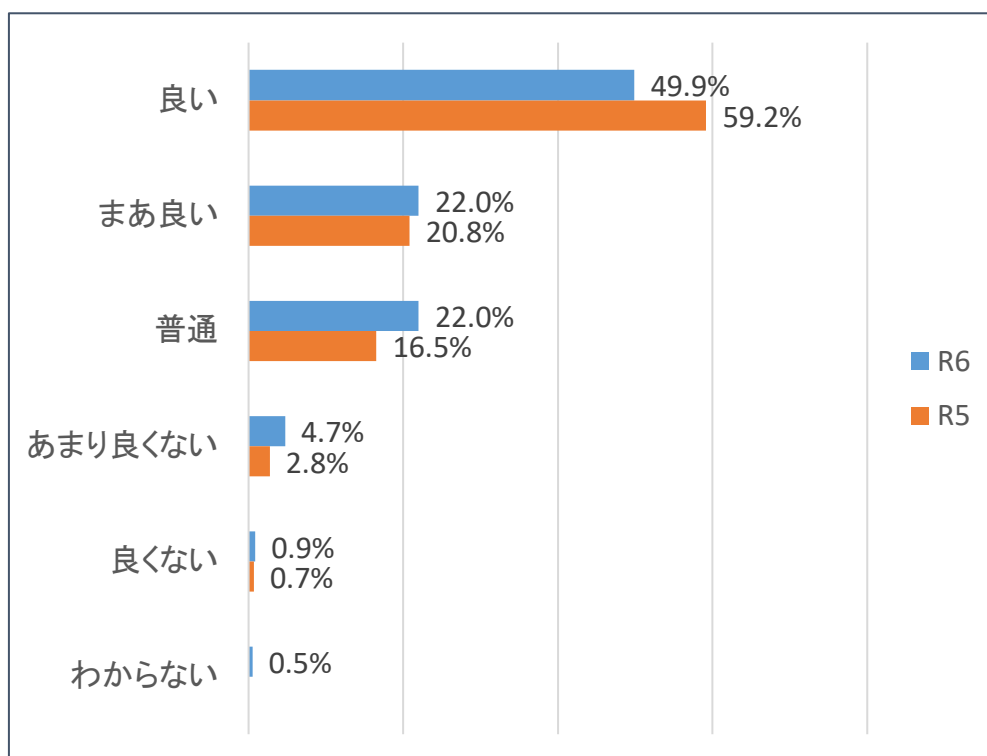
※生年月日より、回答日時点の学年を推計



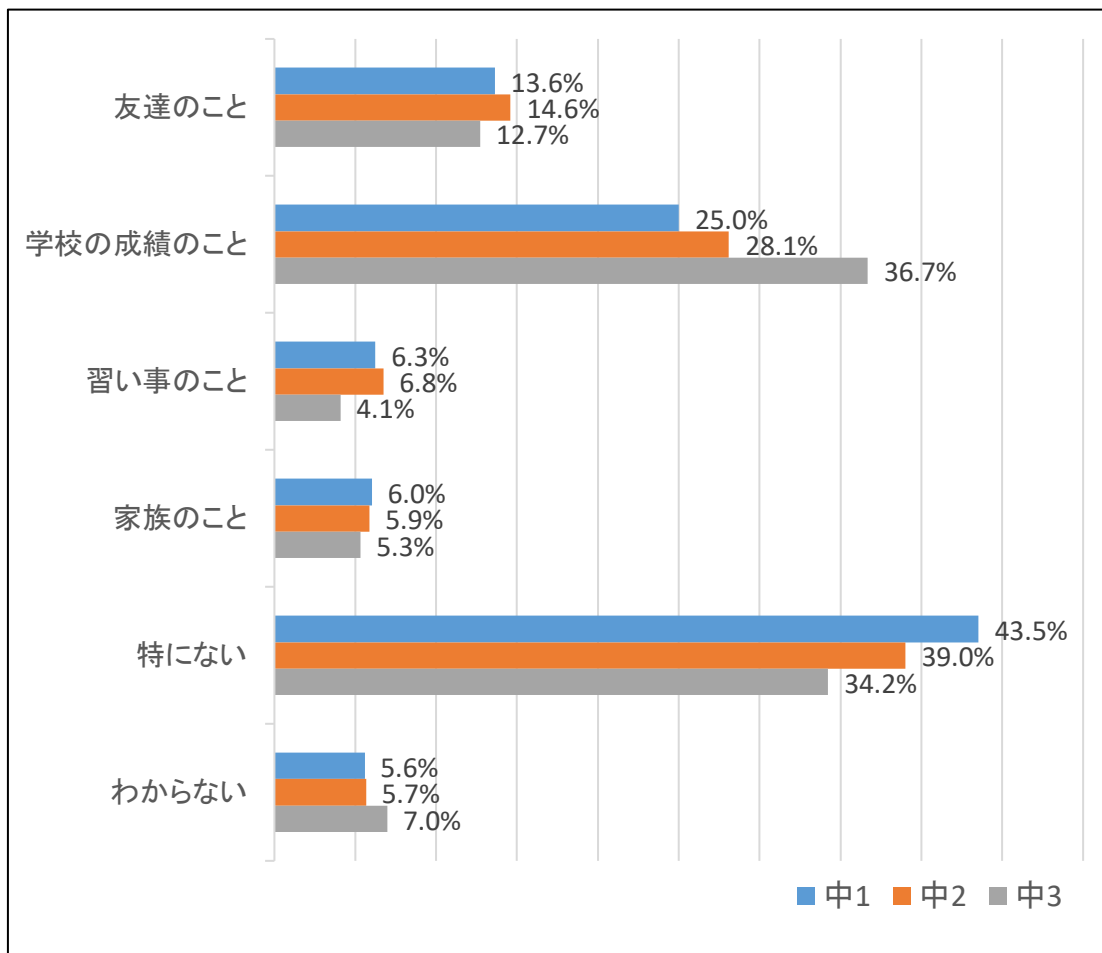
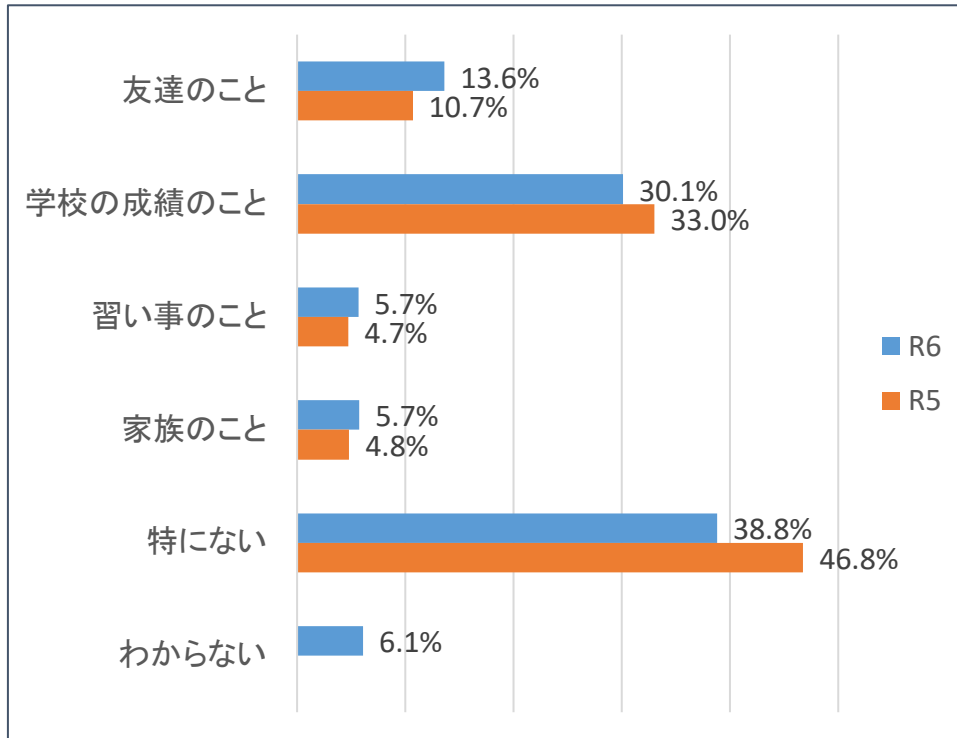
問3) あなたの通学している学校名をお答えください。(SA)



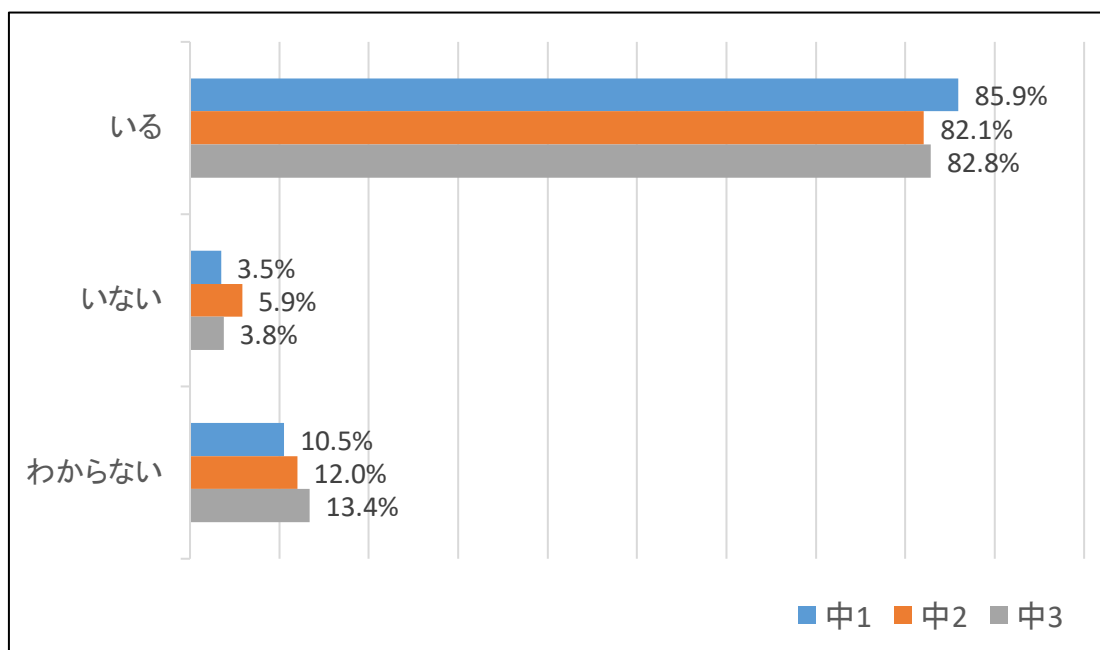
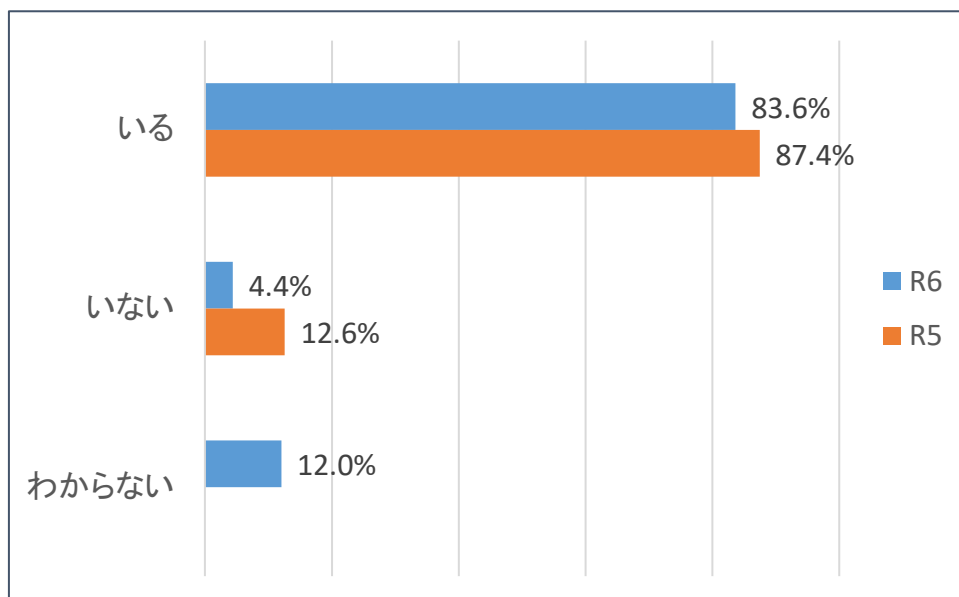
問4) あなたの今の健康状態について教えてください。(SA)



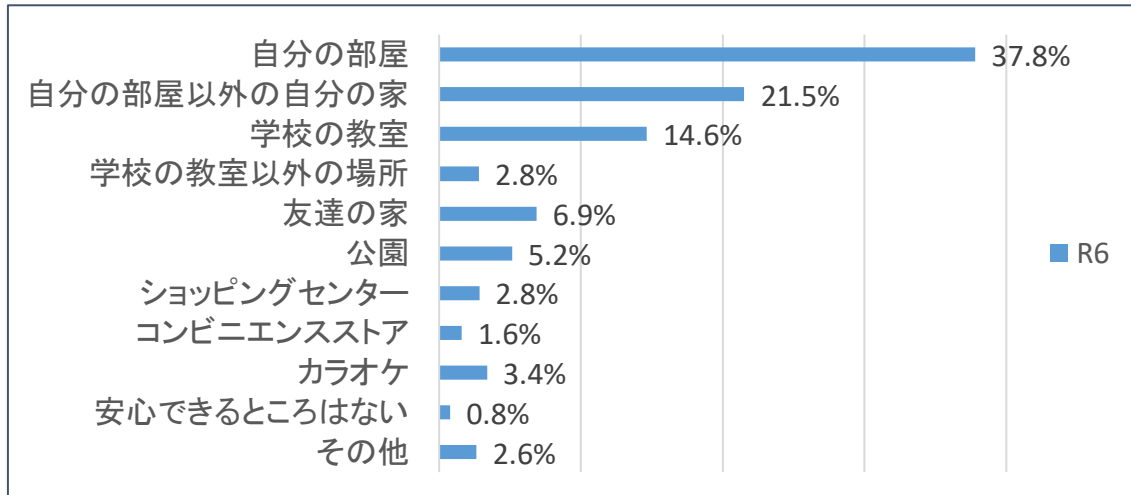
問5－1）あなたが悩んでいることはありますか。（MA）



問5－2) あなたの悩みを相談できる人はいますか。(SA)

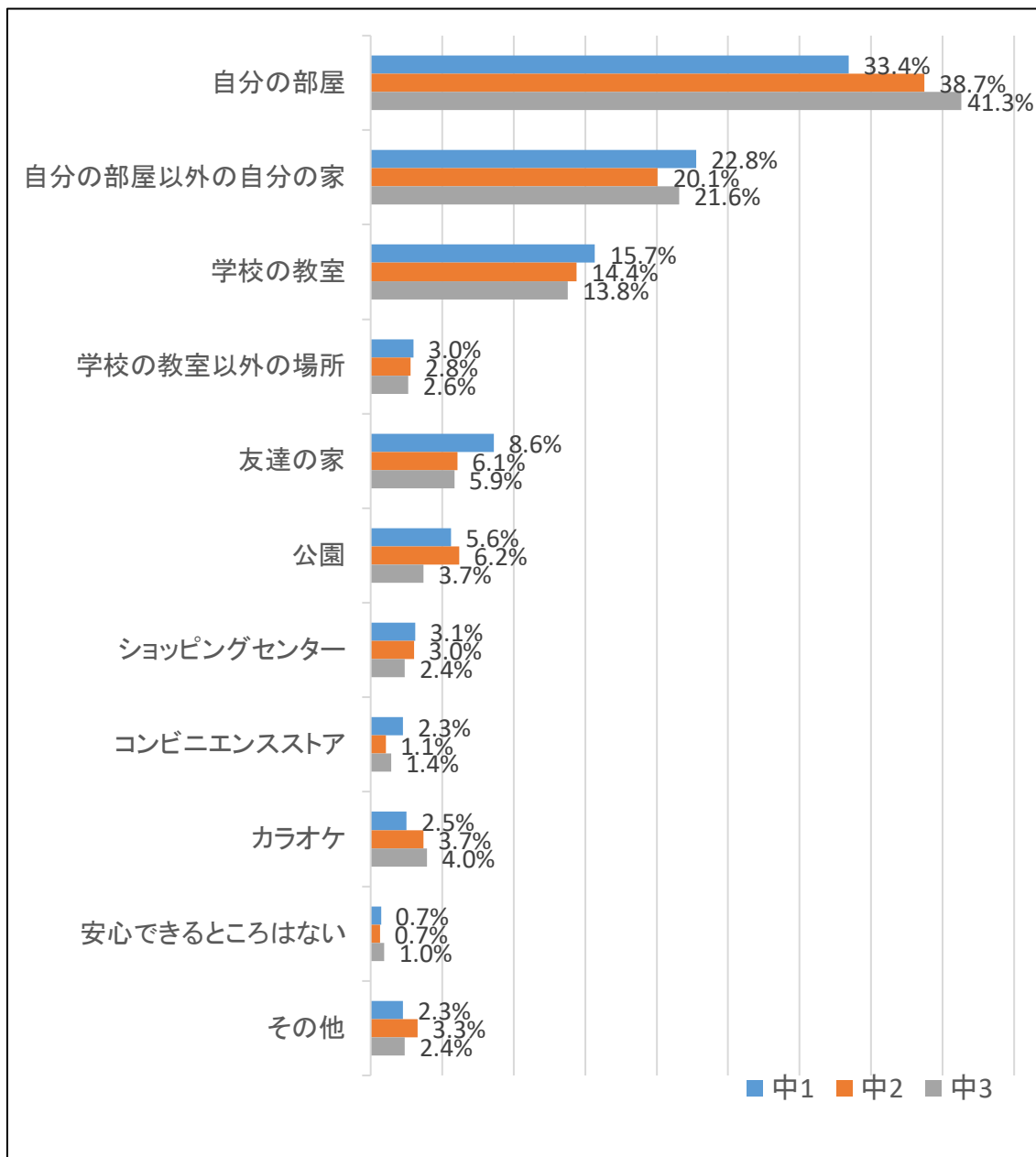


問6) 自分にとって安心できる場所だと思うところを選んでください。(MA)

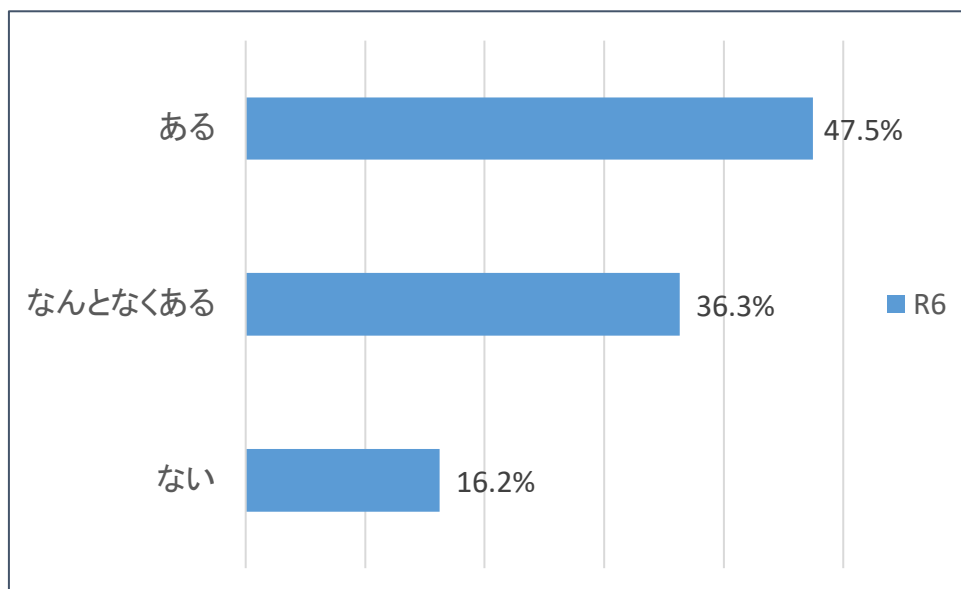


※令和5年度は調査なし

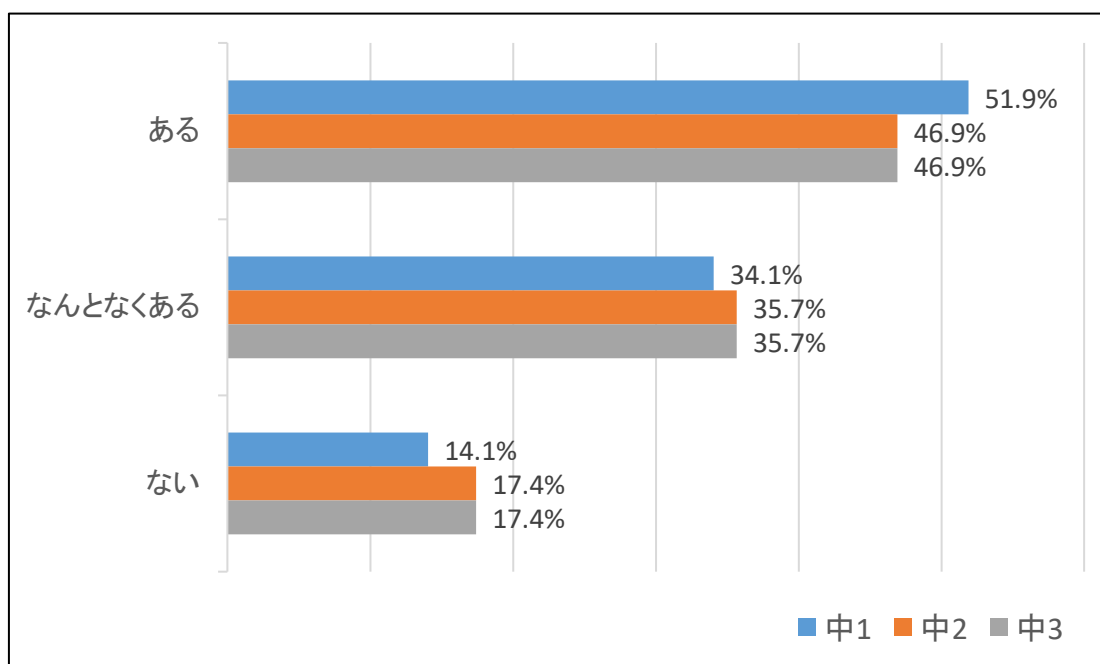
※その他の主な回答：祖父母の家、塾、図書館、トイレ



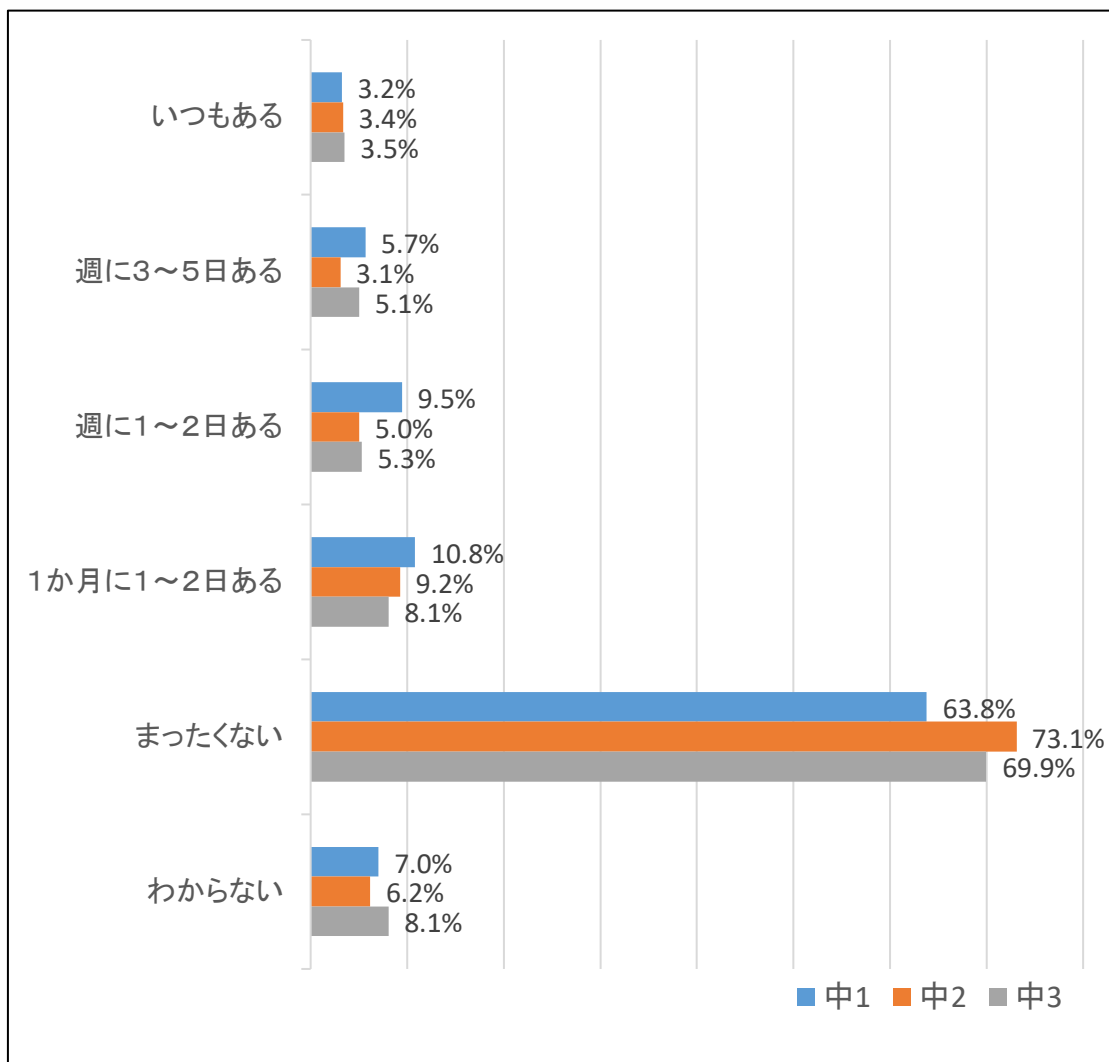
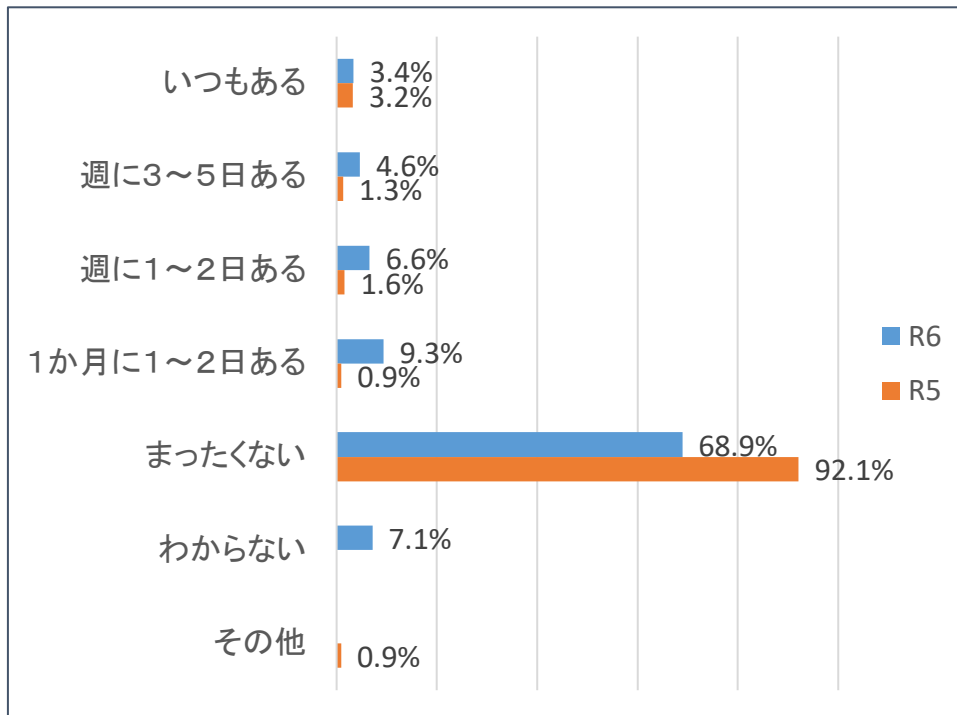
問7) 将来の夢やなりたい職業はありますか。(SA)



※令和5年度は調査なし

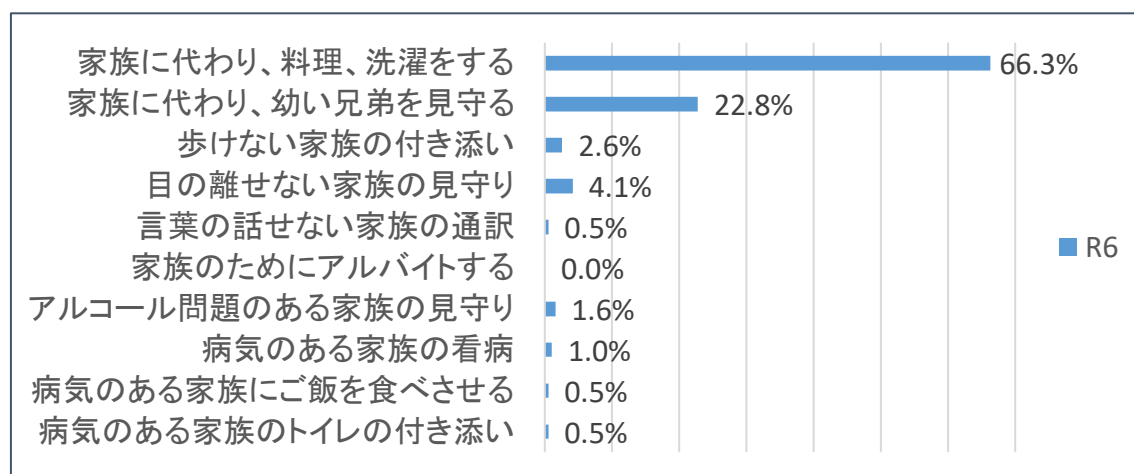


問8) 家族のために、本来、大人がするような家事や家族の世話などの手伝いを
行っていますか。(SA)

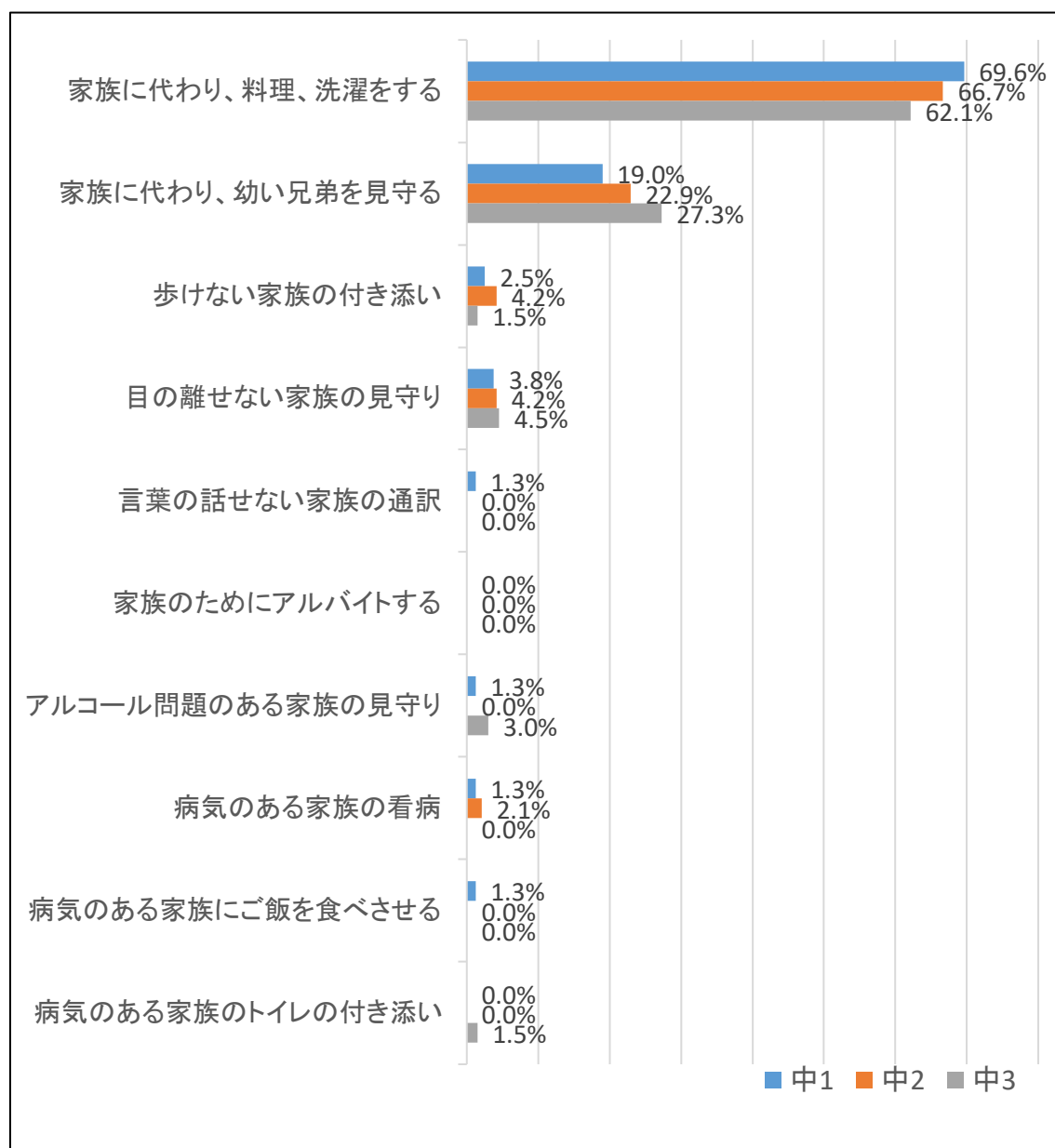


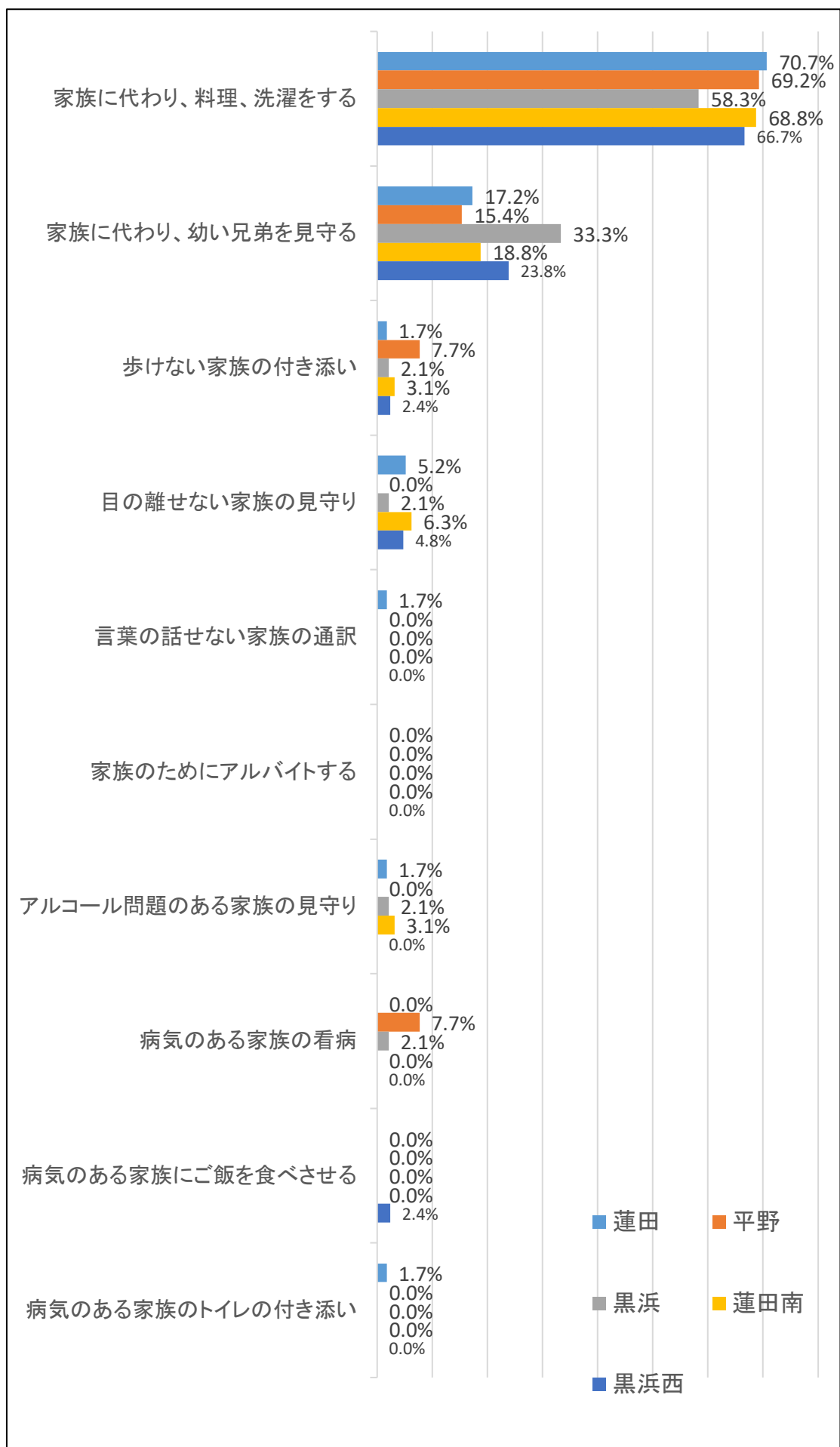
【問8で、「いつもある」、「週に3～5日ある」、「週に1～2日ある」をえらんだ方にうかがいます】

問8－1) あなたはどのようなお世話をしていますか。(MA)



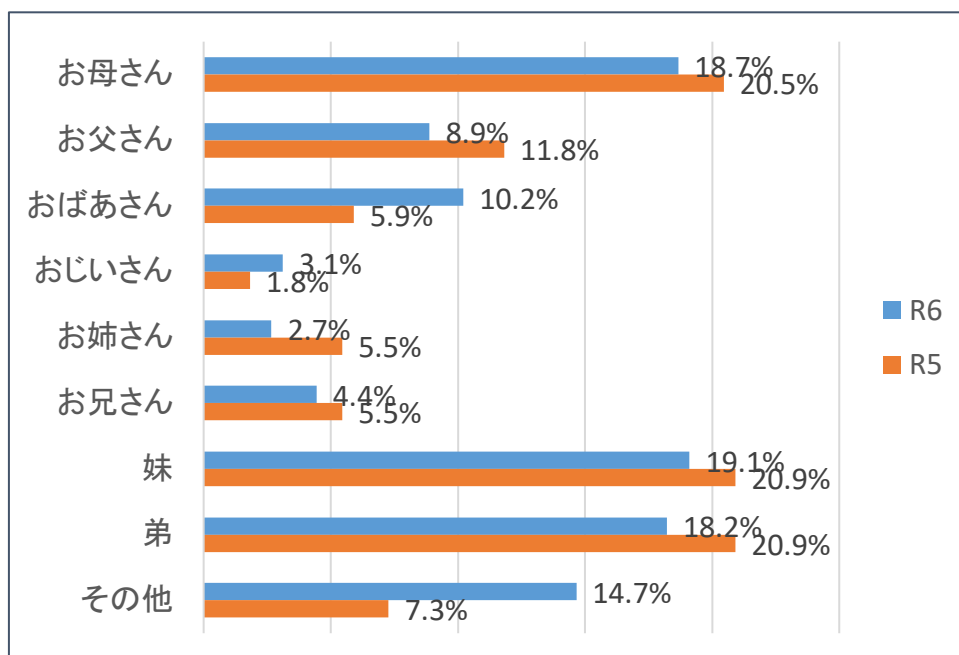
※令和5年度は、選択肢が異なるため比較不可



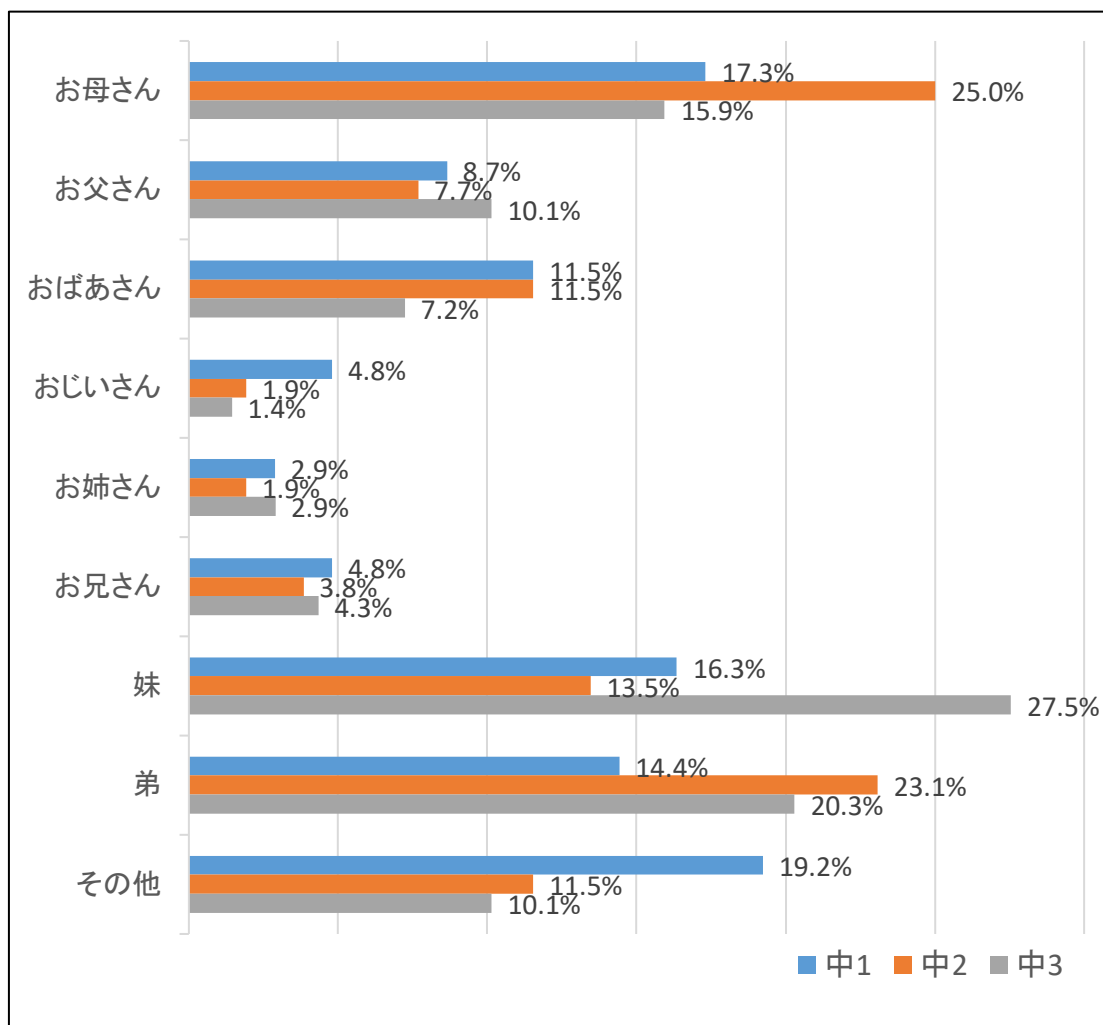


【問8で、「いつもある」、「週に3～5日ある」、「週に1～2日ある」をえらんだ方にうかがいます】

問8－2) あなたは誰のお世話をしていますか。(MA)

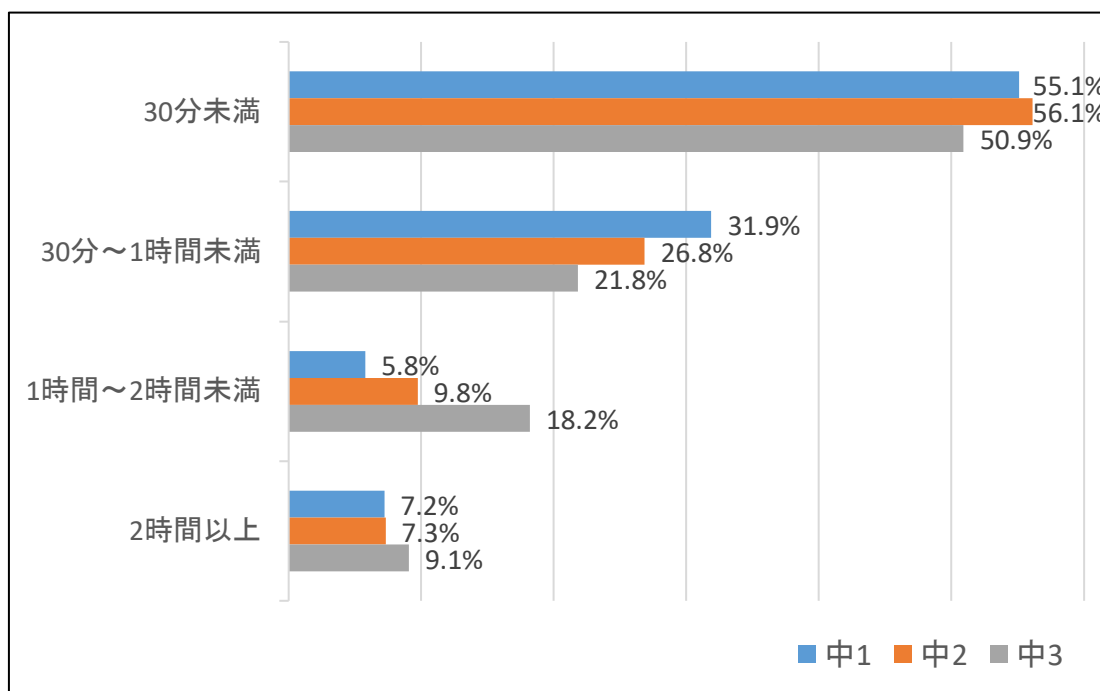
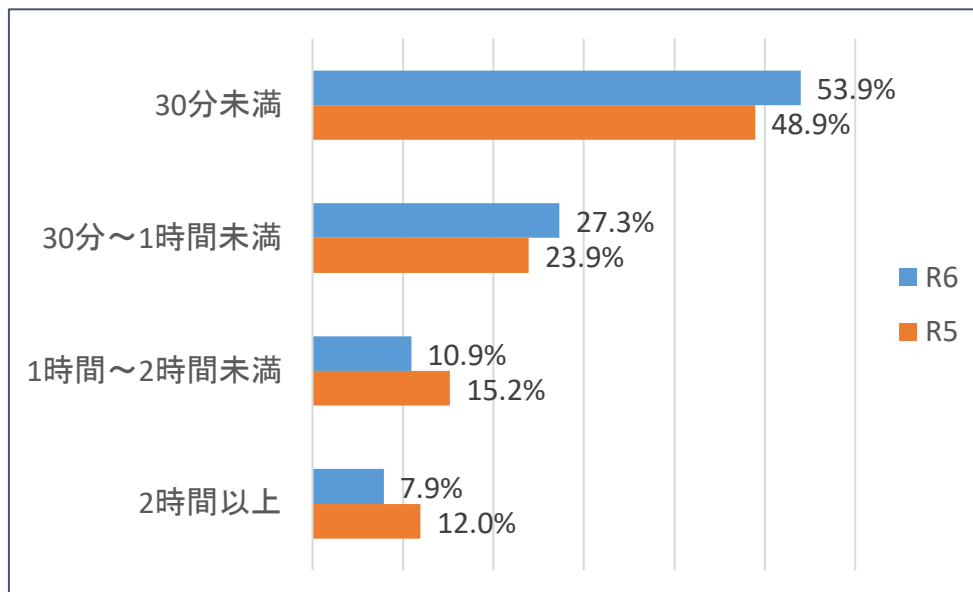


※その他の主な内容：ペット



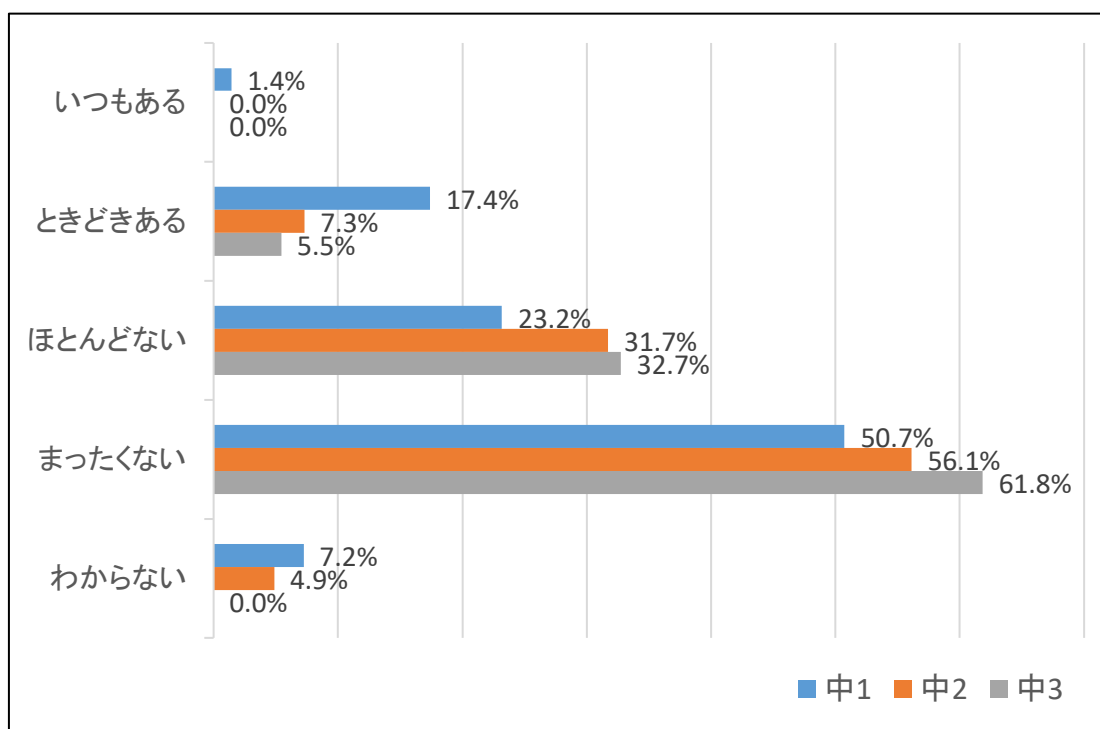
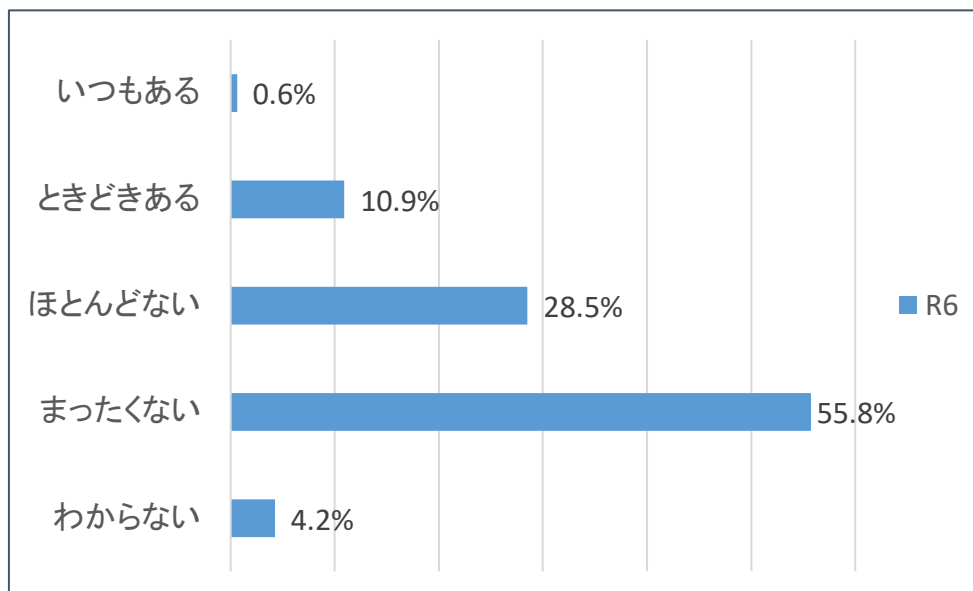
【問8で、「いつもある」、「週に3～5日ある」、「週に1～2日ある」をえらんだ方にうかがいます】

問8－3) あなたは1日にどのくらいお世話をしていますか。(SA)



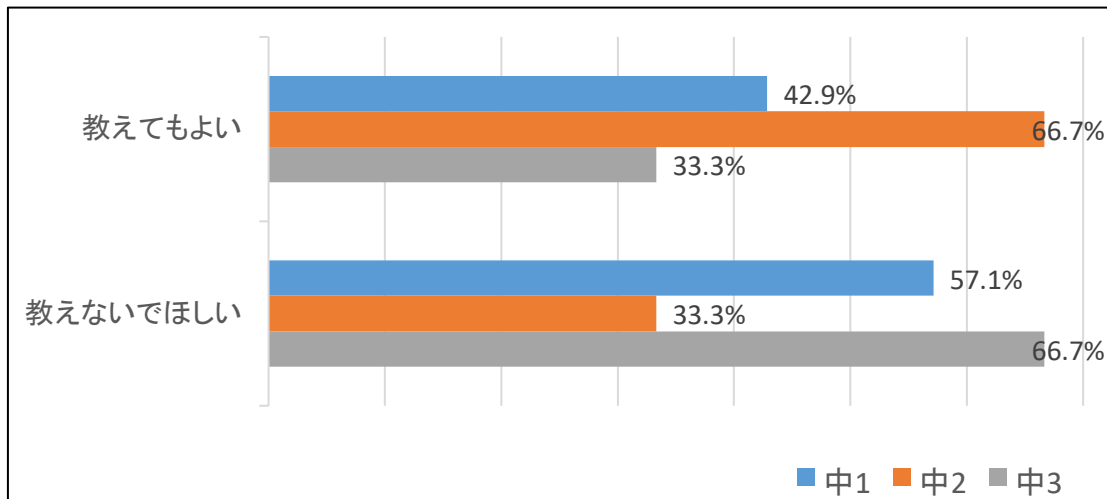
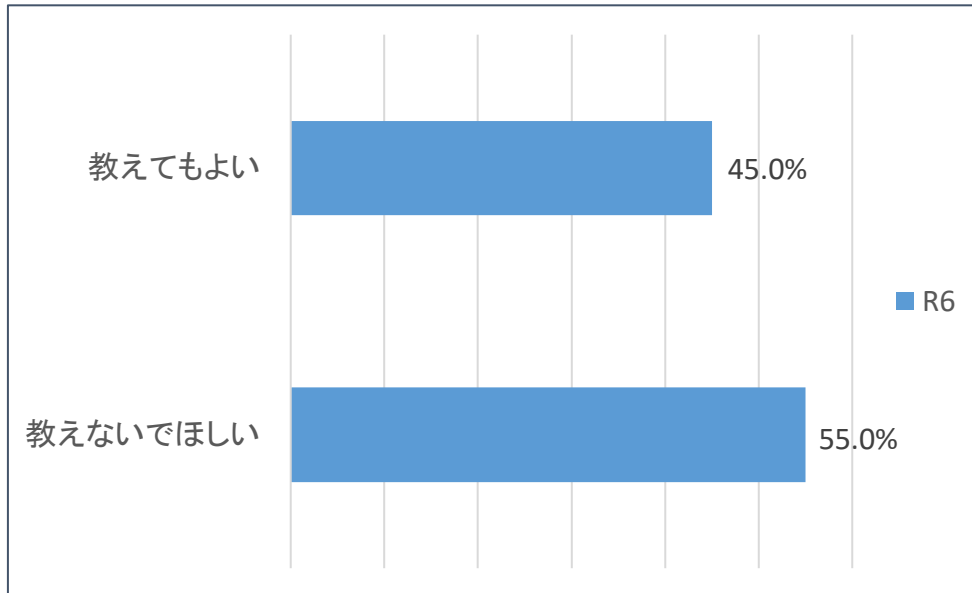
【問8で、「いつもある」、「週に3～5日ある」、「週に1～2日ある」をえらんだ方にうかがいます】

問8－4) 家事や家族の世話などの手伝いをしていることが原因で、遅刻したり、宿題ができなかったり、忘れ物が多かったりするなど学校生活に影響がありますか。(SA)



【問8で、「いつもある」、「週に3～5日ある」、「週に1～2日ある」をえらんだ方にうかがいます】

問8－5) このアンケートの結果を親に教えてもよいですか。(SA)



問9) 家族のこと、学校のこと、友達のこと、その他何でも自由に書いてください。(何もなければ書かなくても大丈夫です)

※非公表

7 ヤングケアラーについて

【区分の定義】

区分A	ヤングケアラー。 子ども・若者育成支援推進法で、ヤングケアラーが「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と定義されていることから、問8-4で、家事や家族の世話などの手伝いをしていることが原因で、学校生活への影響が「いつもある」、「ときどきある」に○を付けた方をヤングケアラーとした。
区分B	ヤングケアラーにはあてはまらないが、本人が自覚していない可能性がある生徒。または、何らかの生きづらさを抱えていると思われる生徒。 問4で「健康状態がよくない」、問5-2で「相談相手がいらない／わからない」、問6で「安心できるところはない」、問7で「将来の夢やなりたい職業がない」、問8で「ケアがいつもある／週に3～5日ある／週に1～2日ある」、問9で「ネガティブな自由意見を記述」の項目に複数あてはまる生徒が該当。
区分C	区分Bの項目に1つのみあてはまる生徒。 支援が必要ではないが、意見表明しているので、その意見を聞いてあげる必要がある。意見をそのままにすることで、自己肯定感が下がり、今後、区分Bになる可能性がある。

【区分ごとの結果】

ヤングケアラーの割合は、1.7%である。

なお、前年度とはヤングケアラーの定義が異なる。

	人数		割合	備考
A	19人		1.7% (19/1,123)	〔前年度〕 追加調査 32人 (2.5%) 最終該当 2人 (0.1%)
	うち、中1	13人	3.5% (13/370)	
	うち、中2	3人	0.8% (3/357)	
	うち、中3	3人	0.8% (3/396)	
B	36人		3.2% (36/1,123)	
	うち、中1	13人	3.5% (13/370)	
	うち、中2	10人	2.8% (10/357)	
	うち、中3	13人	3.3% (13/396)	
C	22人		2.0% (22/1,123)	
	うち、中1	7人	1.9% (7/370)	
	うち、中2	7人	2.0% (7/357)	
	うち、中3	8人	2.0% (8/396)	

【支援方法】

前頁の区分、問8－5の「アンケート結果の親への情報提供の可否」に応じて以下のとおり行う。

	初動対応	方法
区分Aのうち、親への情報提供が可能な者	市	支援
区分Aのうち、親への情報提供が不可能な者、 区分B	学校	面談、必要に応じて支援
区分C	学校	面談、必要に応じて支援